

授業概要

『百人一首』を取り上げ、一首一首、和歌を読み解いていく。古代の人々の自然観や恋愛の形、生活の諸相について知ること大切だが、この授業では、言葉の持つ力の中でも、人の心に訴えかけてイメージさせるはたらきに着目し、和歌一首に描かれた場面を想像してみることを主眼として講義を展開する。日本人が〈ことば〉をどのような形で磨いてきたのかを学び取ってほしい。

授業計画

第1回	和歌の基礎知識 と 王者の歌（1天智天皇、2持統天皇）
第2回	大まかな和歌史の流れ と 万葉集時代の和歌（3柿本人麿、4山辺赤人）
第3回	句切れと掛詞（5猿丸大夫、9小野小町）
第4回	見立てという手法（17在原業平、37文屋朝康）
第5回	和歌が詠み出される状況（35紀貫之）
第6回	序詞のはたらき①（18藤原敏行、27中納言兼輔）
第7回	序詞のはたらき②（46曾禰好忠、48源重之）
第8回	ことば遊びと機知（10蝉丸、22文屋康秀、28源宗于、61伊勢大輔）
第9回	月の歌（21素性法師、31坂上是則）
第10回	歌合という場（40平兼盛、41壬生忠見）
第11回	女歌の系譜①（67周防内侍、72祐子内親王家紀伊）
第12回	女歌の系譜②（89式子内親王、92二条院讃岐）
第13回	叙景歌のニュー・ウェーブ（47恵慶法師、64権中納言定頼、76法性寺入道前太政大臣）
第14回	本歌取りの効果（52清原元輔、81後徳大寺左大臣、90殷富門院大輔）
第15回	前衛的な言語実験（74源俊頼、97権中納言定家）
第16回	筆記試験

到達目標

- ①和歌を構成するそれぞれの表現の内容を知り、相互に組み合わせて場面や詠み手の感動を想像することができる。
- ②古代の日本人の自然観や生活習俗を知り、古典文学に親しむ。

履修上の注意

和歌を読む上で必要な知識はすべて講義しますが、受講者のみなさんはその知識を組み合わせて、光景を想像し、詠んだ人の気分を追体験してみてください。授業ではしばしばみなさんの意見を求めます。指名されたら、必ず自分の考えを述べて下さい。

予習復習

予習は必要ありませんが、3回程度の小テスト（すべて記述式）を実施しますので、復習はしておくほうがよいでしょう。復習のためにはノートもしっかり取っておく必要があります。

評価方法

定期試験の結果と小テストの点数を総合して判定します。

テキスト

谷知子『カラー版 百人一首』（KADOKAWA 504円）

授業概要

日本人として初めてノーベル文学賞を受賞した川端康成を取り上げます。「眼力」で泥棒を撃退するなど、とにかくユニークな逸話がもりだくさんの川端康成。作家像と、その独創的な感性や特異な境遇から生み出された作品の数々を、講義していきます。手のひらにのるくらい小さな短編小説のほか、『伊豆の踊子』を中心にとりあげ、夏目漱石から受けた影響、松本清張に与えた影響といったことも考えていきます。まったく同じ舞台設定で、文豪と文豪が対決したら・・・？どちらの作家の作品のほうが優れているのか、文豪対決を楽しみながら、それぞれに味わってみましょう。

授業計画

第1回	ガイダンス
第2回	川端康成について（生い立ち、ユニークな人物像、交友関係など）
第3回	文章の特徴を学ぶ
第4回	「掌の小説」を読む①弱き器
第5回	「掌の小説」を読む②火に行く彼女
第6回	『伊豆の踊子』を読む①踊り子のモデルと「掌の小説」
第7回	『伊豆の踊子』を読む②被差別について
第8回	『伊豆の踊子』を読む③風景描写について
第9回	文豪 vs. 文豪①川端康成と夏目漱石
第10回	文豪 vs. 文豪②『伊豆の踊子』と『草枕』
第11回	文豪 vs. 文豪③川端康成と松本清張
第12回	文豪 vs. 文豪④『伊豆の踊子』と『天城越え』
第13回	ノーベル賞講演「日本の美しい私」と『雪国』
第14回	ノーベル賞講演「日本の美しい私」と国鉄の「ディスカバー・ジャパン」
第15回	まとめ
第16回	学期末試験

到達目標

日本を代表する作家について学び、これから文学を学んでいくための入門とする。
また、『伊豆の踊子』などの作品を細部まで精読する力を身につけると共に、『伊豆の踊子』と『草枕』、『伊豆の踊子』と『天城越え』といった作品同士の影響関係を学ぶ。

履修上の注意

関心があれば誰でも受講可能。私語厳禁。

予習復習

授業前に配布するプリントを熟読の上、出席すること。

評価方法

授業時の平常点および試験の点数結果にもとづいて、総合的に評価する。評価は、3分の2以上の出席を最前提とする。

テキスト

各回、プリントを配布。また、教科書として『読んでおきたい日本の名作 伊豆の踊子ほか 川端康成 I』（教育出版）を使用する。